

中学1年 国語科「故事成語 —中国の名言—」

柏市立柏第三中学校 名前 平原 信正

1. 情報活用能力育成をめざす単元づくり

(1) 単元について

「伝統的な言語文化」を学ぶ入門教材として、「矛盾」や「助長」といった現代においても一般的に使われる故事成語のもとになった文章を教材に、文語による表記や訓読の仕方に親しむ。もともとは古典中国語で書かれている文章を訓読することによって、漢文訓読体独特のリズムを知ることができ、古典の世界にふれさせるうえで、格好の題材と言える。本教材での学修を通じ、自分たちの日常生活が、脈々と受け継がれてきた言語文化のうえに構築されていることを実感することとなる。

小学校学習指導要領第三学年ならびに第四学年に明示されている「慣用句、故事成語の意味を知り、使う」活動を踏まえ、中学一年ではさらに、さまざまな種類の古典にふれながら、歴史的仮名遣いや漢語がもつ音の響き、また漢文の論理的な場面構成力等に親しませるとともに、故事成語の由来を調べて発表することで、使用する言葉を主体的に見つめ、工夫して使う態度を育てる。

(2) 身に付けたい力

- ・いろいろな故事成語について調べたり、発表したりして、由来や意味を理解する
- ・漢文訓読のきまりを理解したり、音読したりして、文章の響きを味わう

(3) 学習計画

学習のゴール：1人1台端末を用いて情報を整理し、他人に伝達する

	時	学習内容 ○身に付けたい力
1 課題の設定	1	・書き下し文を音読する。書き下し文と口語訳の違いを確認する。 ・「漢文の読み方」を参考にして訓読法を理解する。 ○漢文訓読のきまりを理解する ・自分なりの故事成語「自分流 故事成語」を作ることを課題とする。 発表内容には選んだ故事成語とその意味や由来も含ませる。 ・教師の発表例を見て、あとの学習の過程をイメージする。
	2	
	3	
2 情報の収集	4	・「自分流 故事成語」を作るために、ウェブブラウザを活用して 様々な故事成語の情報をメモ（プリント）に収集する。 ○情報収集能力
	5	
3 整理・分析	6	・調べた情報をもとに、比較・整理を行い、よりよい「自分流 故事成語」を作成できる故事成語を選択させる。 ・内容は、選んだ故事成語、その意味や由来、転じて作成した自分なりの故事成語の順とする。 ○整理・分析能力

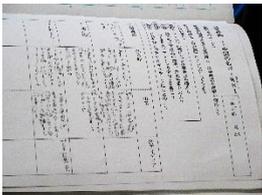
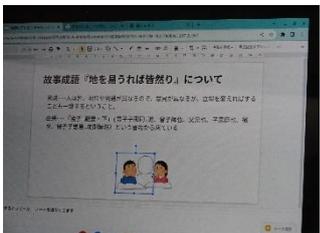
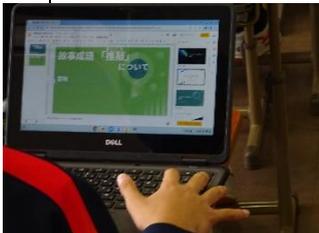
4 まとめ・ 表現	7(本時) 8	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分流 故事成語」を Google スライドにまとめる。 ・Google スライドにまとめたデータをもとに小グループ内で発表を行う。 ○情報伝達能力・表現力
5 振り返り 改善	9	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの代表者による発表を行い、内容について、どのようにまとめ、伝えると効果的か、自分の発表と対比させて振り返りを行う。 ○自己調整力

2. 本時について (本時 7 / 9 時間)

(1) 本時の目標

故事成語について理解を深め、自分の経験などをもとに自分なりの「故事成語」を作成するという課題に取り組む (思考力・判断力・表現力等)

(2) 本時の展開

時間	主な学習活動	指導上の留意点
導入 3分	<p>1 前時の進捗状況を確認する</p> <div data-bbox="277 1003 1002 1099" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>🎓 故事成語を「自分流」にアレンジしてみよう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集時に使用したメモをもとに、課題の通りに適切に自分の経験や考えなどを反映させることができる内容か吟味する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●調べた情報全てが課題にそった内容でない可能性も示唆する。
展開 40分	<p>2 次回の発表に向けて統一の内容の再確認を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表内容は「選んだ故事成語とその意味や由来」、「自分なりの故事成語」。 <p>3 Google スライドにまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吟味した内容をどのように整理してまとめると効果的か考えながらスライドを作成する。   	<ul style="list-style-type: none"> ●伝えるのは情報を持たない他者であり、どんな相手にも内容が伝わる発表を考えさせる。 ●過度な文字量や演出ばかりが良いものではないことを理解させ、発表には発話も含まれることを念頭に置かせる。

終末 7分	4 次回の発表原稿作成にむけスライドの進捗状況の確認を行う ・個々の状況に応じて、必要であれば作業を進めておく。	●少グループ内の発表はタブレットをそのまま見せながら行うことを伝える。(振り返りのグループ代表者発表はタブレットから無線でプロジェクタにアクセスさせて投影させること。)
----------	--	--

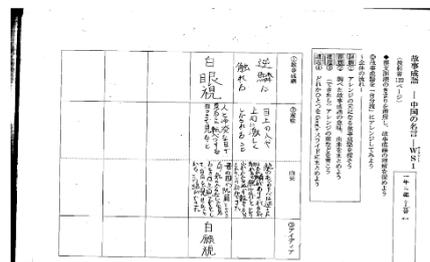
3 実践の流れ

○課題の設定（1～3時間目）

教科書の故事成語を学んだ。また、ふだん我々が使っている言葉の中にも故事成語が使われていることを知り、その由来を知ることによって場面や状況に応じた言葉の使い分けが可能になり、語彙に深みが増すことを理解した。

○情報の収集（4～5時間目）

1人1台端末を活用し故事成語を調べ、「自分流 故事成語」を作成することを目標にプリントに情報を集約した。授業を通じて身につけたい力としていろいろな故事成語を調べて知り理解するということがある。目標を明確にしつつ教科書掲載の故事成語だけではなく、多くの故事成語と出会うために端末を活用した。

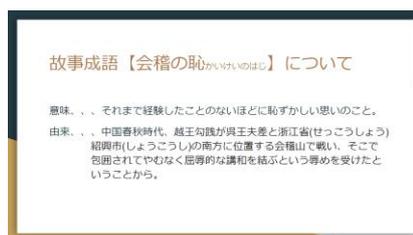


○整理・分析（6時間目）

自分なりのエピソードや由来、または日常における普遍的な思考などから発想を得て、調べた故事成語から「自分流 故事成語」にできそうなものを精選した。

○まとめ・表現（7～8時間目）

ここまでの学習を Google スライドに、調べた故事成語とその由来・意味、更に「自分流 故事成語」としてまとめた。スライド作成後は小グループで発表を行った。



○振り返り・改善（9時間目）

小グループの代表者がクラス全体に向け、発表を行った。



終了後は学級の共有ドライブ内に提出された作品をまとめ、授業終了後も他者の作品を見られるようにした。

実践を終えて

今回の実践においては、情報集約をあえて紙媒体で行った。1人1台端末はこの単元では情報収集のためのツール、他人に情報を伝達するツールとしての活用とした。この単元のみならず、授業者は「情報」をどのように扱うのかを単元における目標と照らし合わせながら考えていく必要があり、紙媒体と電子媒体の利便性の解釈により、どちらをどのように学習の場として生徒に提供していくのが昨今の急激な情報化における喫緊の課題であると考えた。

身につけたい力のひとつに、漢文訓読のきまりを理解するということもあった。返り点の訓読や送り仮名、読み仮名の見分けについて理解することや、書き下し文と口語訳の意味の違いへの理解がこれに相当する。これについて、定期テストの結果を2つの視点から分析しておく。まず達成度でいうと約55～65%程度であることが読み取れた。これは決して高い数値とは言えない。しかしクラスごとに差はあるものの、低迷した数値にならなかったことは今後の同一分野への学習につなげることはできたのではないかと考えた。次に達成率90%以上の生徒の占める割合をみると、これは大きくクラス差があるが、約22～35%程度であった。上位クラスについては相当数の該当生徒がいる。これは学習内容に関心を持った生徒が多かったというふうに前向きに捉えたい。

終了後の生徒の感想には、『知らない故事成語も知ることができ、アレンジの仕方も「上手い！」と思えるものが多かった。アレンジしたものも使えると面白いと思った。』というものがあつた。中には教員側も感心するような閃きのみられるものや、生徒の思いが巧みに表現されているものもあり、生徒も熱心に取り組んだようである。他にも授業について前向きな感想を書いている生徒が殆どであり、学習そのものの形態がコンテンツベースからコンピテンシーベースに変わろうとする昨今においては多くの生徒の関心・意欲・態度が大きく高まったことは成果と捉えられるのではないだろうか。課題として、スライドを上手く活用できたものの知識としての定着が不十分な生徒へのフォローが必要であった。単元の時数にどれほどかけられるか、という問題はあるが、今後もこのような生徒の思考を深め、表現するような学習活動を模索したい。